

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

山と溪谷6月号で

今発売中の「山と溪谷」6月号で、インタビュー記事を書かせていただいた。インタヴューアーはアウトドア関係のライターの野村仁さん。雪崩事故を受けて、高体連とはどのような組織なのかということが知られないまま、新聞各紙またテレビなどマスコミでもいろいろな論評がされている。

実際このかわらばんの読者の方の中にも各県の高体連を代表する方も多いので、マスコミからの取材を受けた方もいらっしゃるだろう。小生自身は全国高体連の副部長

という立場上、様々なところからこれまで数えきれないくらいの取材を受けた。第1回雪崩事故検証委員会の中で委員会の方針として、個別にマスコミ対応はしないということを決め、委員長がそのことを明言したこともあり、その後は一段落しているが、それでも委員の中で高体連という立場を一番知っているということで、今でも多少の取材はある。

今回の「山と溪谷」の記事も雪崩事故そのものに直接触れてはいないが、それでもこのことを避けて通るわけにはいかず、記事にさせていただく上ではずいぶん配慮していただいた。かわらばんの読者は多くが高校関係者なので、言わずもがなのことばかりではあるが、一定世間に高体連登山専門部をアピールすることはできたのではないかなと思っている。興味ある方は、店頭で手に取って



ご覧ください。

*****この記事について、新潟の吉田光二さんが次のようなコメントをくださいましたので、ちょっと照れくさいですが、紹介しておきます。*****

大西先生が、今まさに声を大にして言わなければならないことを言ってくれている。しかも、その考えのもとに実践されているという極めて説得力のあるものです。この記事が、事故以降、ビビっている全国の顧問たちにどんなにか励ましになることか、と嬉しくなりました。ところが昨今の顧問は山溪を読んでいない。「登山」を知らない顧問が読まなければいけないよーと、コピーして配布しました。

買わせればよいのですが…。検証委員会も現場の声を持って頑張ってください。

大町岳陽高校の全校登山

大町岳陽高校の全校登山は、今年も7月下旬に行われる。2校統合の中でも目玉として生き残ったこの行事は、学校挙げての一大事業である。運営は校内に設けられた「登山委員会」が当たるが、今はコース選定のさなか。今年も8コースが計画されており、生徒

たちは、自分の行きたいコースを選んでいるところだ。山小屋の収容能力の関係で、調整をして最終的なコースが決定する。職員もいずれかのコースに割り振られることになり、生徒とともに、本番に向けては大忙しの日々となる。

学校登山そのものは、県内でも中学校などでは多くの学校で行われているが、普通学校登山といえば、学年とか、クラス単位で行われるのが常である。しかし、本校のそれは、学年を越えた希望制なので、教員も生徒も本番に向けては、チームワークを形成していかななくてはならない。だから、生徒と教員の割り振りが完成すると、「山別会（やまべつかい）」と呼ばれる縦割りの集団による、文字通りの登る「山別」の会が行われることになる。今年の第1回の山別会は6月8日に行われる。以降本番までには3回の山別会を開く。槍ヶ岳を目指す隊は、特別に岩場通過技術のためのトレーニングをも行う。大町市運動公園の人工岩場を使って、岩場での身のこなしやクライムダウンの練習、階段をつかっているのはしごの通過訓練などを山岳部がサポートして行うのである。

教員は、山小屋との打ち合わせも兼ねながら、7月に入ると、三々五々下見をする。また、一年生は、訓練登山と銘打って、6月中旬に一度「鷹狩山」に登って足慣らしをする。鷹狩山は標高1170m、学校から標高差430mほどの里山ではあるが、天気が良ければ眼下に大町市、正面には全校登山で登る峰々が圧倒的な迫力で迫ってくる絶好の展望台、モチベーションづくりには最高の場所だ。

本校に赴任して以来過去3年間、僕は槍ヶ岳隊への同行を依頼されたが、OBのサポート（登山本番には、山岳部OBが各隊のサポートをしてくれる）も申し分なく、何より生徒のモチベーションが高いので多少天気が悪くても全くストレスのない登山をさせてもらってきた。あいにくなことに今年の全校登山はインターハイの時期が早まったことで、見事にバッティングしてしまい、僕自身は行くことができなくなってしまった。

今日は、一学年の合同HRで、登山の心得を話してほしいということだったので、他学年のことではあったが、同じ学校のよしみで話をした。冒頭、生徒たちに質問してみると山が好きという生徒が一定数いたので、ちょっぴり嬉しくなった。

実はこの全校行事、一つ残念なことに今年から3年生は希望制にすることになってしまった。昨年度末の反省職員会の中で、議論をした結果である以上仕方がないが、一つの時代が終わったという一抹の寂しさもある。しかし、希望者にしたからといって、まったく行く生徒がいなかったかというところでもない。今日帰りがけに去年槍ヶ岳に行った一人の3年生の生徒が、「先生、去年よかったから今年も槍ヶ岳に行くことにしました。」と声をかけてくれた。そんな生徒が、一人でも育ってくれたことがとても嬉しかった。

今年もまた、全校登山の時期がやってきた。

編集子のひとごと

5月12日、テレビ信州のクルーが大町岳陽高校の針ノ木合宿に同行し取材してくれた。先日そのことがニュースの中で特集としてとりあげられ10分ほどの番組となって放映された。番組の中で3年生が仲間と登る山の楽しさや山の中での生活を語り、1年生が目をキラキラさせて山岳部に入って初めての山行を満足げに語るのを聞いて、この子たちのために僕らがしなければならぬことは、この素晴らしい大自然の贈り物を楽しめる環境づくりだと改めて感じた。明後日からは高体連の長野県大会。年に一回の県内山岳部員たちが、交流もしながら日ごろの安全登山の技術を確認しあう場である。（大西 記）